

# 世界で信頼とリスペクトを勝ち取るには？ 看板職人が認定資格を取得する重要性

## 海外の同業者はなにを見ているのか？

今回はフィルムメーカーが手掛けるさまざまな認定資格の重要性と、世界各国で仕事をする上での必要性について取り上げてみたいと思います。

世界各国でフィルムを販売しているメーカーでは、大抵何かしらの資格認定制度を設けています。代表的な例を挙げると、3M ブリファード(看板全般におけるラッピング技術)、ナイフレス認定インストーラー、ダイノック認定インストーラー、AVERY CWI 認定(カーラッピング)、HEXIS ゴールド・シルバートロンズ認定(主にカーラッピング、一部看板貼り)、OLAFOL カーラッピングインストーラーなどがあります。その中でも、現時点で日本において他国同様に受験できるのは、AveryとHEXISの認定試験です。

日本はほぼ単一民族国家のため、簡単なコミュニケーションでいたいその人を理解したり、信頼出来るような人間か判断しやすいです。しかし、多民族国家で、異なる言語が飛び交うアメリカやヨーロッパなどでは、他人を信頼し、互いに円滑なコミュニケーションを取り合うのは、たやすくありません。

現に私も、海外でラッピング市場の視察を始めてから最初の3年間くらいは、どんなに自分の貼る技術を説明しても実演しても、全く相手にしてもらえませんでした。

原因は今となってはわかります。当時は先に紹介した認定資格を持っていないどころか、世界規模のコンテストに出場した経験さえなく、客観的に見て、他国のメーカーから信用される具体的な実績を、何一つ持っていなかったのです。私は何者か？ 国内外問わず同業者が集まる中にいると、私はどんな職人なのか、説明を求められる機会が多々あります。

私は日本人だ。私は30年近く看板を



2016年2月、アメリカ・セントポールの3M本社にて、4日間にわたるナイフレス公認インストーラーの資格認定合格時に撮影した記念写真



Avery Dennison 社 CWI 認定書



HEXIS 社 ゴールドインストーラー認定書



3M エンドースト認定書



3M ナイフレスインストーラー認定書

作ってきた。私はフィルムを貼るのが得意だ。などを口頭で説明しても全く信用してもらえません。強いて言うなら、そのような自己アピールは他国の人のほうがより強烈です。

自分を見てもらうためにはどうしたらいいのか。私は他国の同業者との会話やSNSでのコミュニケーションを通して、欧米諸国では、フィルムメーカーの認定資格を保有したり、コンテストでの成績がその人を判断する大切な目安になることを知りました。

それまでの私は、経験と技術さえあれば資格なんて必要ないと考えていましたし、当時43歳で学生時代からも遠く離れていたため、資格のための勉強、受験など全く興味がなくなっていました。

そのような気付きから、まずは粘着シートの技能検定1級を取得し、職業認定指導員資格を得て、日本で始まったばかりのAveryとHEXISの認定試験を受け、同時にアメリカとヨーロッパ

でのラッピングコンテストにチャレンジを開始したのです。

するとどうでしょうか、認定資格をまとい、ラッピングコンテストで上位に食い込めるようになると、それまで相手にしてもらえなかった他国の人も、私に興味を持ってくれるようになったのです。

## ワールドワイドな業界の潮流に適應

ヨーロッパからアメリカに移住した友人から、永住権の証明書であるグリーンカードを取得するために技術認定試験を受験し、コンテストでの成績を残して、それを一つの根拠として申請をしたという話を聞いたことがあります。

他国では資格とコンテストの結果は、仕事の依頼や内容にかなり重要な要素になっています。日本では安全に関わる資格は重要視されますが、技術資格はそれほど受注に大きな影響力を及ぼしていないと思います。

認定資格の取得とコンテストで収めた

# SAMURAI WRAPPER



3M ナイフレス認定講師のフィル・アキン氏との記念撮影



3M本社にて3M認定講師マリシオ・オリベ氏との記念撮影



3Mトレーニングセンターにて受講者恒例の壁面サイン



3M ナイフレス認定試験のテスト風景

成績は、どんな言葉より、信頼とリスペクトを呼ぶのです。しかし、尊敬を得るには条件があることも知りました。世界同一基準の認定、またはたくさんの国の職人が参加するコンテストでなければあまり評価されないのです。

今年の4月から入管法が改正され、日本全体でも外国人の労働者受け入れが拡大する動きが強まっています。今後私たち看板業界でも外国人雇用が増える予想されます。その時、私たちはどのような基準で海外から訪れた職人を選定すればよいのでしょうか？

また遠くない未来、看板業界の国内市場規模がさらに縮小し、海外の労働賃金の方が高いという環境になったら、日本の職人も手軽に他国へ出稼ぎに行く時代もくるかもしれません。

もし一流の看板職人である貴方が世界に羽ばたいた時、自身の経験と技術を正しく伝え、信用してもらえるために

も、認定資格を取得しておくのは重要なことです。

私は日本の「職人」という言葉が好きです。特に若い方々には「職人」という肩書きに自信とポリシーをもっていただきたいです。あえて私は、日本で〇〇マイスターなどとは言いたくありません。ましてや、和製英語的な呼び方では、海外では意味が通じず、話も聞いてもらえません。

職人とはなんと素晴らしい呼び名だと思います。この言葉を海外でも意味のあるものにしていくためにも、今一度、業界が一体になって認定資格取得に力を入れる必要性も感じています。

認定資格の必要性、おわかりいただけでしょうか？ 次号から、認定資格の技術的な内容に触れながら、世界各国のマーケットを紹介。市場を比較しつつ、日本国内との連動性を探っていきたいと思います。

## 苅谷 伊

(かりや ただし)



### 経歴

1969年2月3日生まれ 50歳  
89年大学中退後、父の看板業を手伝いはじめる。07年よりカーラッピング専門のPPF事業部を立ち上げる。ラッピング分野初の国内団体となる日本カーラッピング協会の設立にも奔走し、17年1月に初代会長に就任する。主にレース車両や自動車メーカーのデモカーのラッピングを手掛ける。

### 主なラッピングコンテスト

- 2017年(タイ・バンコク) FESPA ASIA WRAP MASTERS CUP 3位
- 2017年(アメリカ・ラスベガス) SEMA SHOW HEXIS WRAPPING BATTLE 2位
- 2018年(ドイツ・ベルリン) FESPA WRLD WRAP MASTERS 4位
- 2018年(アメリカ・ロングビーチ) WRAP OLYMPICS 優勝
- 2018年(アメリカ・ラスベガス) SEMA SHOW HEXIS WRAPPING BATTLE 3位
- 2019年(ドイツ・ミュンヘン) World Wrap Masters Europe 8位

### SNS

フェイスブック (苅谷 伊)  
Instagram @designlab.inc.wrap\_japan  
Twitter @tadashikariya

株式会社デザインラボ PPF 事業部

〒501-6023  
岐阜県各務原市川島小網町 2150-24  
TEL/FAX : 0586-89-2332

〒243-0021  
神奈川県厚木市岡田 3122 apr サービスセンター内  
TEL : 046-258-6531 FAX : 046-228-7636